

水稲収穫後のほ場管理について

発信日：2023年10月25日

収穫後の水田管理が翌年の高品質米の安定生産につながります。来年に向けて次の対策を行ってください。

1 雑草対策

(1) 多年生雑草（オモダカ・クログワイ）（写真1・2）

十分に防除できなかつた水田では土中にある塊茎が越冬し、翌年も発生します。寒期（12月～1月）に耕うん（ロータリー耕）を行い、塊茎を掘り起こすことで乾燥・凍結により死滅させます。

(2) ナガエツルノゲイトウ[特定外来生物]（写真3・4）

相模原市、平塚市、茅ヶ崎市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、寒川町の水田で発生が確認されています。他の地域でも水田に発生していないか確認し、疑わしい雑草が見られた場合は、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。

ナガエツルノゲイトウは畦畔沿いに繁殖しやすい多年生雑草です。再生力が旺盛で、茎はちぎれやすく、植物体の断片や地下茎から増殖します。用水の流れや機械作業（刈払い・耕うん作業）で拡散するため、降霜前までにラウンドアップマックスロードなど水田刈跡に適用のある非選択性除草剤を散布してから耕うんを行ってください。

(3) ノビエ（写真5）

本年はノビエの残草が目立ちました。ノビエは夏から秋にかけて出穂・開花・結実してし種子を土壤面に落下させ、翌年も発生します。冬期に耕うんを深く行い、種子を深く埋没させます。



オモダカ（写真1）

クログワイ（写真2）

ナガエツルノゲイトウ（写真3）

花（写真4）

ノビエ（写真5）

2 土づくり

(1) 稲わらの処理

水田の稲わらは収穫後、早急にすき込んでください。すき込む際に石灰窒素〔20kg/10a〕を施用すると、稲わらの分解が促進されます。石灰窒素のほか、ようりん〔40kg/10a〕やケイカル〔120kg/10a〕などの土壌改良剤も稲わらの分解を促進します〔施用量は目安〕。

(2) 堆肥等の施用

化学肥料高騰対策として、堆肥等の有機質肥料の活用を検討しましょう。水田に堆肥を施用する場合の基準は下表のとおりです。施用時期は秋から冬にかけて行い、土中で分解を促進させます。ただし、湿田では水稻の根に障害を及ぼすガスが発生する恐れがあるため、堆肥の投入を行わないようにしてください。

表 堆肥の基準施用量 (t/10a) ※ 神奈川県作物別施肥基準より

| | 牛ふん堆肥 | 豚・鶏ふん堆肥 | 稲わら堆肥 |
|-----|-------|---------|-------|
| 乾田 | 0.5～1 | 0.5 | 1 |
| 半湿田 | 0.5 | 0.3 | 0.5 |

注:乾燥豚ふん及び乾燥鶏ふんは肥料成分が高く、水稻の生育が不安定になりやすいので使用を避ける。

3 病虫害対策

(1) イネ縞葉枯病 (写真6)

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病で、本年は平年に比べ発生が多くなりました。感染したひこばえは、翌年の伝染源になります。そのため、収穫後早急に耕うんし、すき込みましょう。また、ヒメトビウンカの越冬場所となる畦畔雑草や休耕田の除草を行い、越冬個体数を減らしましょう。

(2) スクミリングガイ (写真7・8)

ア 貝や卵塊を発見したら、捕殺しましょう。捕殺の際は素手で触らないように気をつけましょう。

イ 寒期(12月～1月)にロータリー耕を行い、貝を掘り起こして寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く、浅めに耕うんすると、効果が高まります。発生密度が高い水田では複数回行いましょう。越冬個体が多い水口、水尻、水が溜まりやすい畦畔沿いは、ロータリーが届かないので、鍬等を使い、貝を破碎しましょう。

ウ 越冬場所となる用排水路や柵(ます)の泥上げを行い、越冬している貝を破碎し、越冬密度を低下させましょう。泥上げは地域全体で行うと効果が高いです。



イネ縞葉枯病に感染したひこばえ (写真6) スクミリングガイ (写真7) 卵塊 (写真8)

4 獣害対策

ひこばえはイノシシやシカなどのエサになります。獣害が発生しやすい地域では、収穫後早急に耕うんし、すき込みましょう。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL : 0463-58-0333 内線 381～384